

第7章

本事業に対する評価等



1 管理官報告

第43回

「東南アジア青年の船」事業

管理官 中村 かおり

(帰国報告会(平成28年12月14日)での概要和訳)



(1) はじめに

平成28年12月14日、第43回

「東南アジア青年の船」事業の参加者が、無事に東京に戻ってきました。管理部は事業を安全に実施し、参加者全員が健康に事業を全うするよう全力を尽くしました。

日本及びASEAN各国の政府関係者の積極的な参加と協力により、参加青年たちは所期の目標を達成し、成果を確実に手にしたものと考えています。

以下、今回の事業の中で私たちが経験したことを振り返ります。

(2) 日本国内活動

10月26日、参加青年が東京に一堂に会し、参集式及び歓迎レセプションが開催されました。翌27日から30日まで、11のグループに分かれて11県(宮城県、福島県、栃木県、長野県、三重県、兵庫県、奈良県、岡山県、徳島県、高知県、長崎県)を訪れました。三重県を訪問した青年からは、伊勢神宮を訪れてわが国の伝統的な精神性を学ぶことができたこと、宮城県を訪問した青年からは、東日本大震災からの復興に取り組む人々の努力に感銘を受けたことなどを聴き、地方プログラムが参加青年のよい学びの機会となったことを嬉しく思いました。また、日本参加青年にとっては、主催国の青年として、ASEAN諸国の青年に対するホスピタリティを発揮する機会となりました。この日本国内プログラムでお互いを理解したことが、乗船してからの更なる相互理解や円滑な意見交換を可能にしました。

10月31日には、乗船後のディスカッション活動に向けて、所属するディスカッション・グループごとに、テーマに則した課題別視察を実施しました。例えば「異文化理解促進」のグループが訪れた横濱中華學院は、わが国におけるダイバーシティやインクルーシブ教育の成功事例の一つで興味深かったとの評価も乗船後に耳にしました。

同日31日午後には、各国ナショナル・リーダー、ユース・リーダー及びアシスタント・ユース・リーダーが秋篠宮同妃両殿下の御引見を賜った後、安倍内閣総理大臣を表敬し、温かい激励のお言葉をいただきました。

11月1日及び2日の2日間、参加青年は「日本・ASEANユースリーダーズサミット」に参加しました。

本サミットでは、別途募集した日本人青年約100人を交えて「青年の社会活動への参加～あなたがより良い社会を創る主役です～」をテーマにディスカッションを行ったほか、駐日ASEAN各国大使館の協力の下、各国のパフォーマンス、展示などの文化交流が行われました。

(3) 船内活動

① ディスカッション活動及び事後活動セッション

ディスカッション活動及び事後活動セッションは本事業における知的活動として、船内活動の中でも中核に位置づけられるものです。委員長のJoyce、副委員長のEdz、書記のAnderyを中心に運営され、私もメンバーとして参画したディスカッション活動運営委員会が主導しました。ディスカッションを成功裡に実施するために労を惜しまず働いた委員会メンバーと一緒に働いたことは、私にとって喜ばしく思い出深い経験となりました。

また、Taka、Eugene、KD、Jay、Zenn、Grace、Yanyan及びDeviの8人のファシリテーターは、みな熟練した各分野の専門家であり、セッションを効果的に運営していただきました。彼らは様々な面で参加青年にとって「お兄さん」「お姉さん」のような存在でもありました。

ディスカッション活動の最中から青年の自主活動が見られました。船内の食べ残しを減らすための啓発活動(「食育」グループ)、HIV感染者を支援するためのアイス・バケツ・チャレンジ(「保健教育」(HIV/AIDS対策)グループ)、インクルーシブ教育の重要性を訴えるための手話による歌の活動(「学校教育」グループ)など、何かの活動を始めたり、その活動に周囲の人たちを巻き込んだりしていくことの意味合いを参加青年が認識したことを嬉しく思いました。

ディスカッション活動の早い段階から、参加青年は事後活動セッションの第一歩を踏み出す用意ができていました。Yoko、Jay、Flash、Camera、Gerald、Esti、Aryn、Nene、Pidod及びLinの10人の熟練した頼もしい事後活動組織代表者並びにミャンマーNLのMs. Khin Sandar Theinには、的確に参加青年を指導するなど、本事業のプログラムの最後の部分の限られた時間の中で多くの仕事をしていただきました。今や参加青年は、取り組むべき新たなプロジェクトを持ち、どのようにして本事業参加前の自分と違う自分になっていったのかを伝えられるようになりました。私は参加青年と一緒に取り組めるプロジェクトを持ったことを目の当たりにして嬉しく思います。それぞれが日常生活に戻った後も、一つの目標の下、船で培った固い絆を維持していくことができるでしょう。

② ソリダリティ・グループ活動

ソリダリティ・グループ活動では、参加青年同士が友情を育むとともに相互理解を深めました。船内では創造的なゲームなどの活動、寄港地では大学や社会福祉施設などへの訪問を行いました。第43回SSEAYPの参加青年の結束を強めるという目的を首尾よく達成したソリダリティ・グループ活動小委員会のメンバーに感謝したいと思います。この小委員会は、委員長のAdhi、副委員長のElvisを中心に運営されました。参加青年が積極的にソリダリティ・グループ活動に参加し、お互いをより深く知り、緊密な間柄になれたことが成果です。

③ クラブ活動

クラブ活動では、参加各国の文化を青年が身をもって体験することができました。委員長のFlynn、副委員長のRazak、書記のDeeを中心に運営されたクラブ活動小委員会は、学び、教え、相互理解を深めるための様々な機会を皆に提供してくれました。

④ ナショナル・プレゼンテーション

ナショナル・プレゼンテーションは、本事業のプログラム中でも参加各国の文化をお互いに理解する上で大きなハイライトの一つです。どの国も自国の文化を他国の青年によく理解してもらおうと準備に相当なエネルギーを注いでいました。連日行われた各国のプレゼンテーションを通じて、参加青年はダイバーシティの意味を学んだのではないかと思います。また、グローバルな視点から自国の文化について改めて考えるよい機会になったのではないのでしょうか。

⑤ 自主活動

船内活動として、国や既存のグループの枠にとらわれずに、様々な分野ですばらしい才能をもった参加青年が企画した自主活動も実施されました。これはナショナル・プレゼンテーションなどでは紹介しきれなかった各国の文化的側面を見出すよい機会であり、交流を更に深めることができた活動であったと思います。

(4) 訪問国活動

11月4日に、大勢の方々の見送りを受けて東京港を出航し、ベトナム、タイ、シンガポール、インドネシアに寄港するとともに、航空機により代表団がカンボジアを訪問しました。

訪問国では、それぞれ4日間滞在し、表敬訪問、課題別視察、地元青年との交流のほか、2泊のホームステイを実施しました。

ホームステイでは、参加青年は異なる価値観に直面しながらも、ホストファミリーとの友情や絆を培うことができました。出港の際は毎回、ホストファミリーとの涙

の別れが至る所で見られました。

① ベトナム

ホーチミン市には第42回SSEAYPに続き2年連続で訪れることとなり、温かく迎えていただきました。私はディスカッション・グループ5と一緒にHIV感染者である子供たちの施設を課題別視察で訪れました。国民一人ひとりの尽力とそうした境遇の子供たちの手助けをしたいという意志に感銘を受けました。インクルーシブ社会の実現は、政府の施策だけではなく国民一人ひとりの社会活動への参加によって達成されるものであることを私たちに教えてくれる一例だったと思います。

また、各国ナショナル・リーダーと私は、ホーチミン市人民委員会副委員長Nguyen Thi Thu氏を表敬しました。私たちの地域の更なる発展に向けて、ASEAN及びわが国の青年がリーダーシップを培うことの重要性について意見交換ができました。

② タイ

バンコクには3年ぶりの寄港となりました。私たちはNarong Pipatanasai副首相を表敬する機会をいただきました。副首相は、SSEAYPの意義を評価されるとともに、私たちの地域における平和と強韌性の深化に参加青年が更に大きく貢献することに期待を示されました。また、参加青年は大学を訪れて、地元の学生と意見交換を行い、船内でのディスカッションで身につけた異文化間リテラシーを実践する機会となりました。

③ カンボジア

バンコクに滞在している間、私はカンボジアのナショナル・リーダーSeang Soleakさん、各国のユース・リーダー11名、管理部員数名と共に、プノンベンを訪れました。Hun Sen首相への表敬は1時間以上に及び、2つの強いメッセージをいただいたと理解しています。一つは「皆さんの能力を高めるため最善の努力をしてほしい」、もう一つが「状況がどんなに厳しくても決してあきらめないでほしい」ということです。Hun Sen首相はご自身の経歴と信条を詳しく披露してくださいました。カンボジアに同行できなかった参加青年も含め、私たち皆にとって光栄なことでした。この表敬を通じて、参加青年やSSEAYPに対するHun Sen首相の期待の大きさを強く感じました。また、このカンボジアへの小グループでの訪問によって、ユース・リーダー間の絆が更に強まったのを目の当たりにし、また、彼らが、それぞれの国やソリダリティ・グループを統率するという普段の責務から解放されて「一人の」参加青年としてカンボジアでの時間を楽しんでいることも嬉しかったのを覚えています。

④ シンガポール

シンガポールも3年ぶりの寄港となりました。本年は日・シンガポール外交関係樹立50周年であり、「ASEAN・日本カーニバル」が催される中、大変な歓待を受けました。ナショナル・リーダーと私はGrace Fu 大臣を表敬させていただく機会を得ました。また、日・シンガポール2国間の友好促進への貢献に対して、シンガポールにおける事後活動組織「SSEAYP International Singapore」が日本の外務大臣表彰を受けました。さらに、シンガポールでは社会貢献活動に参加し、社会貢献活動がどのように役立っており、また、実際にどのような手段が講じられるべきかを体験を通して知る貴重な機会となりました。

⑤ インドネシア

最後の寄港地であるジャカルタでは、Fachir外務副大臣を表敬する榮譽にあずかり、温かく迎えていただきました。Fachir副大臣は既参加青年であり、SSEAYPが副大臣の人生をどのように変えたのかを、個人的な側面及び職業的な側面から詳しくお話いただきました。副大臣のお話は、間もなく第43回SSEAYPを「卒業」し、事業後の最初の一步を踏み出そうとしている参加青年にとってすばらしい贈り物となりました。また、インドネシアの伝統的な楽器である「Angklung」を参加者とホストファミリー全員で演奏し、「We are the world」を斉唱したことは忘れられない思い出となりました。

(5) 船上既参加青年の集い

各寄港地では、参加青年がホームステイを行っている間に船上同窓会を行いました。たくさんの既参加青年にお会いすることができ、その中には1974年の第1回、1978年の第5回の参加者など初期の参加者もいらっしゃいました。多くの既参加青年がそれぞれの分野で指導的な役割を果たしていること、また、SSEAYPに大変強い愛着を持ってくださっていること知り大変嬉しく思いました。これはまさに私たちの財産であり、このすばらしいコミュニティに318人の新たなメンバーが間もなく加わろうとしています。

(6) おわりに

活動的な青年、礼儀正しく強いリーダー、規律正しいグループ、思いやりがあって楽しむことが大好きな参加青年を得て、成功裡に全プログラムを終了することができました。彼らは普通の若者のグループではありません。彼ら一人ひとり、職場や学校での「スター」なのだと思えます。そうしたスタープレーヤーがリーダーとしての能力や個性をお互いに磨く有意義な時間を過ごしたのを見ることができて大変嬉しく思いました。

船内では様々なチャレンジがありました。その度に、

参加青年が自発的に協働し皆がより良い状況になるよう動くのを見ました。一例として、新たな小委員会である「プレス小委員会」を立ち上げたことが挙げられます。Tonyを委員長とした小委員会です。管理部プレスや地元プレスとの協調を目指して責務を全力で果たす姿をみて誇らしく感じました。本事業のプログラム全体を通して多くの仕事をなした彼らに感謝したいと思います。

そのほか、参加青年の代表から出された提案や行動のすべてに敬意を表したいと思います。参加国の尊厳が問われるような出来事、様々な船内活動、船内での喫煙、振る舞いや規律に関するルールの見直しなど。この点でEnricが議長を、CharlieとSuciが書記を務めたグループ・リーダー会議のメンバーは、COC（船内運営委員会）と緊密に連携しながら、すばらしい仕事をしてくれました。今回のSSEAYPは変化を自ら起こすことのできる参加青年で構成されていました。皆さんにはこの船で培ったネットワークをぜひ大切にしてほしいと思います。皆さんにとって10年後、さらにもっと後まで役立つでしょう。SSEAYPは、限られた期間の楽しみではありません。永続する財産であり、皆さんは、将来、その財産がどのように役立つかを見出していくでしょう。皆さんが将来における私たちの地域の持続性や強靭性を更に高めていってくれるものと期待しています。

また、私たちが手にした成果は、ナショナル・リーダーの、濱田さん、Allez、Nai、Jim、Jenny、Yodi、Kamal、Vong、Mariam、Sandar、Kalのご尽力あってこそのものであります。ナショナル・リーダーの皆さんは権威で参加青年を従わせるのではなく愛情で彼らを導いてくれました。ナショナル・リーダーは、確かにこの第43回SSEAYPの成功の鍵でしたし、彼らの業績を私たちは忘れることはないでしょう。また、私の同僚の管理部員のことすら忘れることはできません。彼らは参加青年のために献身的に働きました。私はこの献身的なチームの管理官であったことを誇りに思います。

最後に、参加青年の皆さんにメッセージを送りたいと思います。これから私たちは日常生活に戻り、それぞれの職場や学校で私たちの責務を果たすこととなります。第43回SSEAYPは大きな成果をもたらして終了します。SSEAYPは今後も更に続いていきますが、第43回SSEAYPは1度きりです。このSSEAYPを特別なものにしてくれたすべての関係者の皆さまにお礼を申し上げます。

第43回SSEAYPは皆さんが帰ってくる場所ではなく、既に皆さん自身の一部になっています。皆さんには前を向いて進んでほしいと思います。皆さんは諸先輩方からの財産を引き継ぐとともに将来の参加青年にその永続する財産を引き渡す立場にあります。私たちが公共の利益のために働くことを続ける限り、私たちの道は再び交わることになると思っております。

2 参加青年による事業評価

プログラム終了時に実施した評価シートの集計（ナショナル・リーダー11名、参加青年318名）

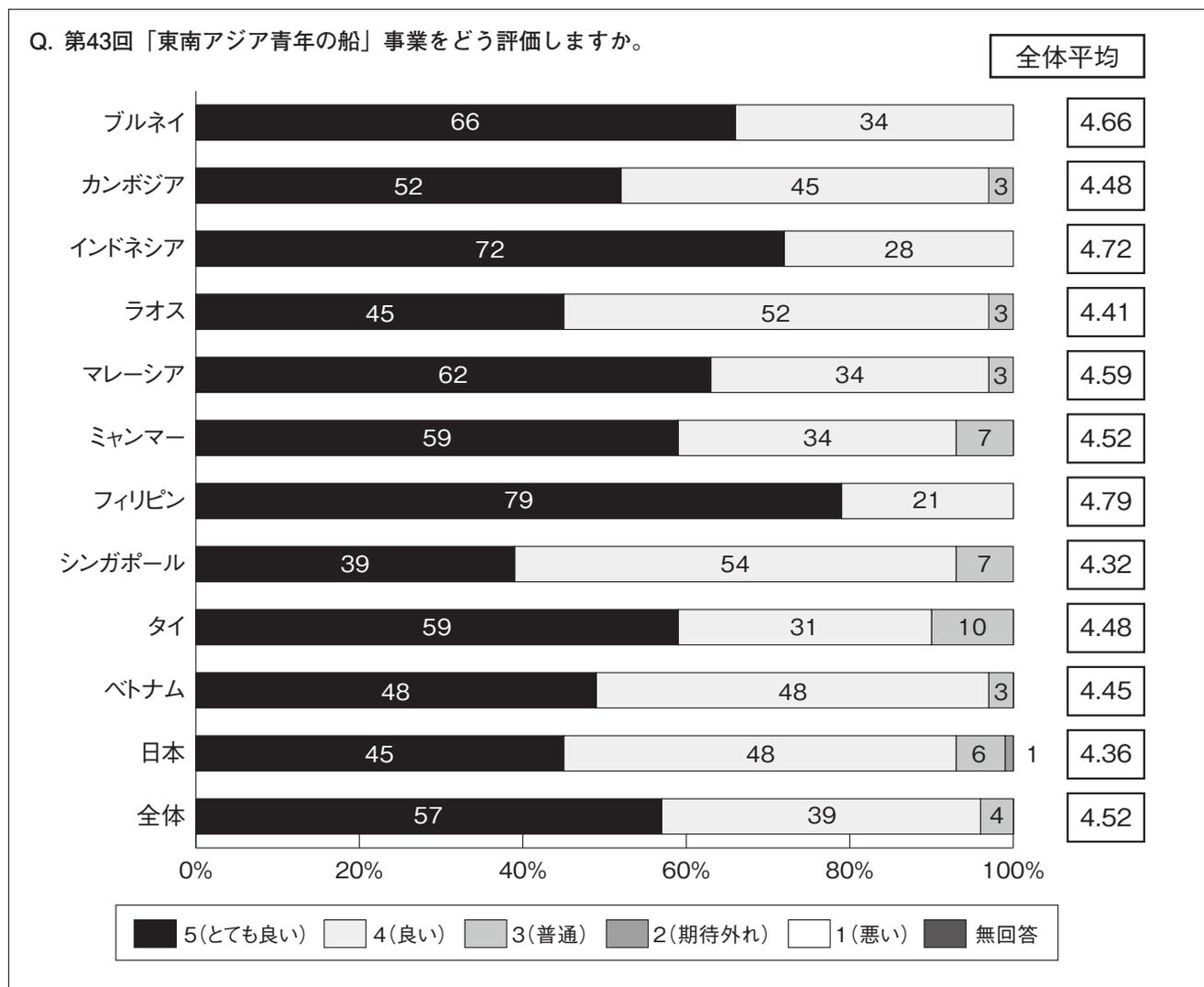
注：値は小数点第一位で四捨五入されている。

統計処理上、合計が100%にならないことがある。

[事業全体]

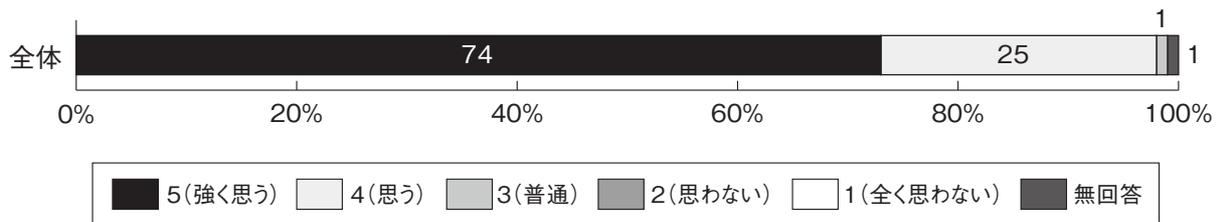
事業全体に関しては、全体平均は4.52で、96%の参加者が4以上（良い、とても良い）と評価した。

この事業が各国からの参加者間の「相互理解を促進すること」及び「友情を築くこと」に貢献していると思うかとの問いに対し、それぞれ99%、98%が4以上（思う、強く思う）と評価した。また、この事業が自己の能力向上にどのように役立つと考えるかとの問いに対し、「異文化への対応力」、「集団生活への適応力（協調性と柔軟性）」、「責任感」、「自己管理能力」及び「国内外の友人・ネットワーク作り」に関して、85%以上の参加者が4以上（大きな効果がある、著しく大きな効果がある）の評価をした。



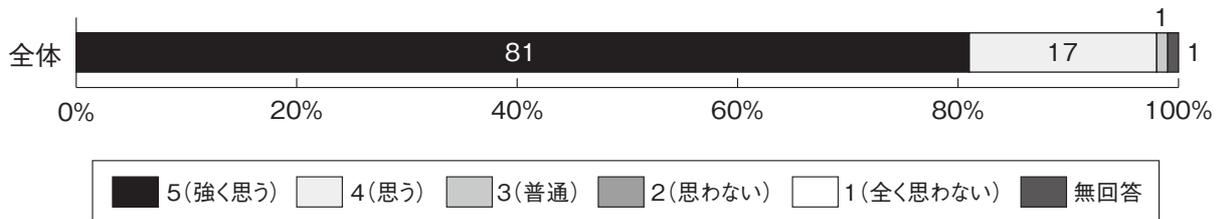
Q. この事業が、あなたと各国の人々との相互理解を促進することに
貢献していると思いますか。

全体平均: 4.73



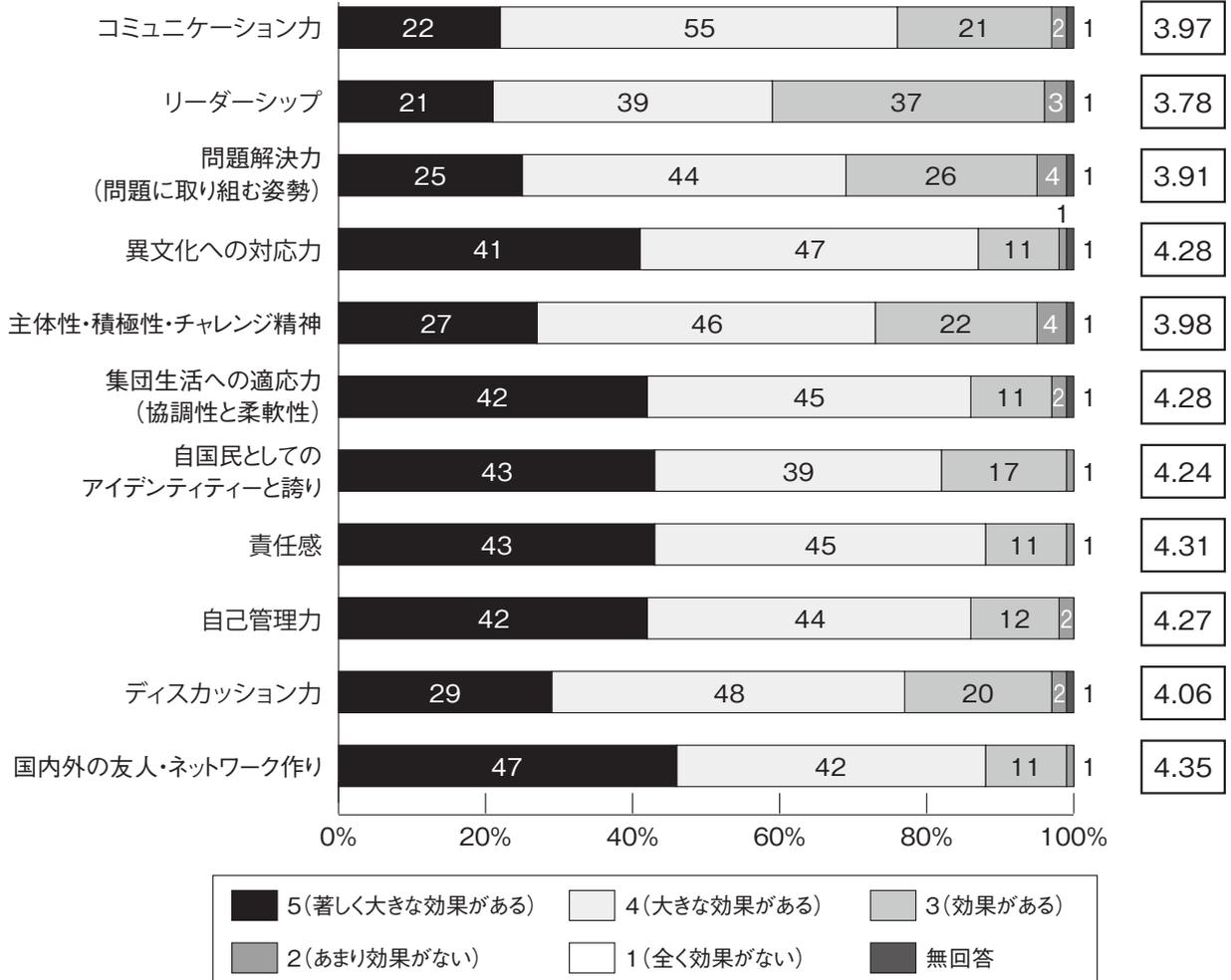
Q. この事業が、あなたと各国の人々との友情を築くことに
貢献していると思いますか。

全体平均: 4.81



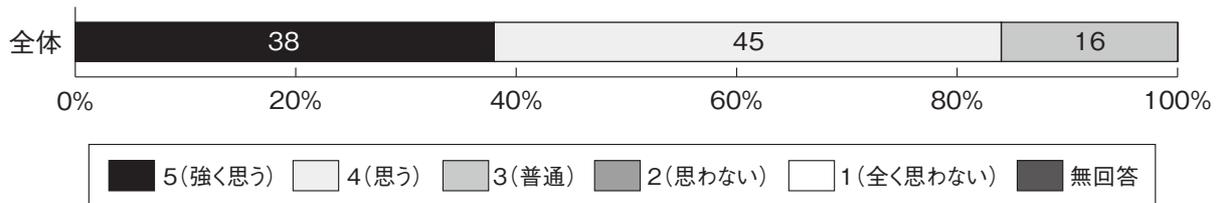
Q. この事業が自己の能力向上にどのように役立つと考えますか。それぞれの項目に
ついて回答してください。

全体平均



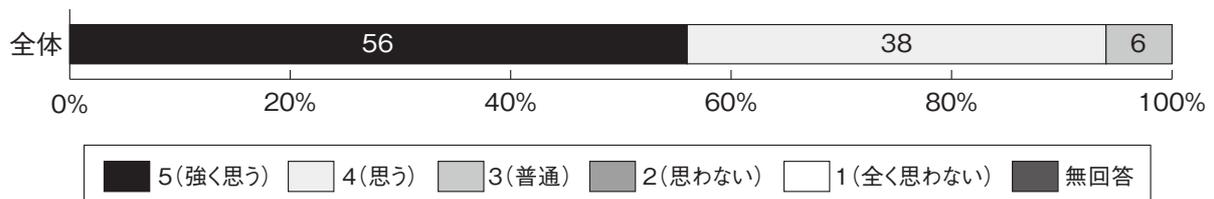
Q. この事業への参加は、あなたのキャリア（職業）における将来性を高めると思いますか。

全体平均: 4.22



Q. この事業への参加は、社会貢献活動へ参加したいという意欲を高めると思いますか。

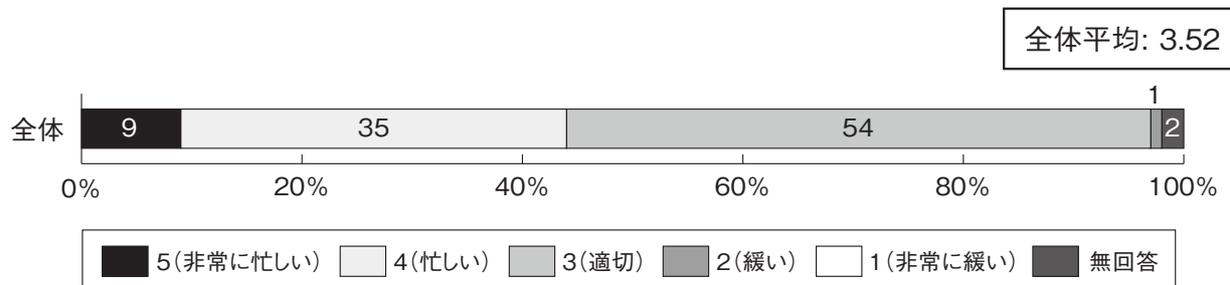
全体平均: 4.50



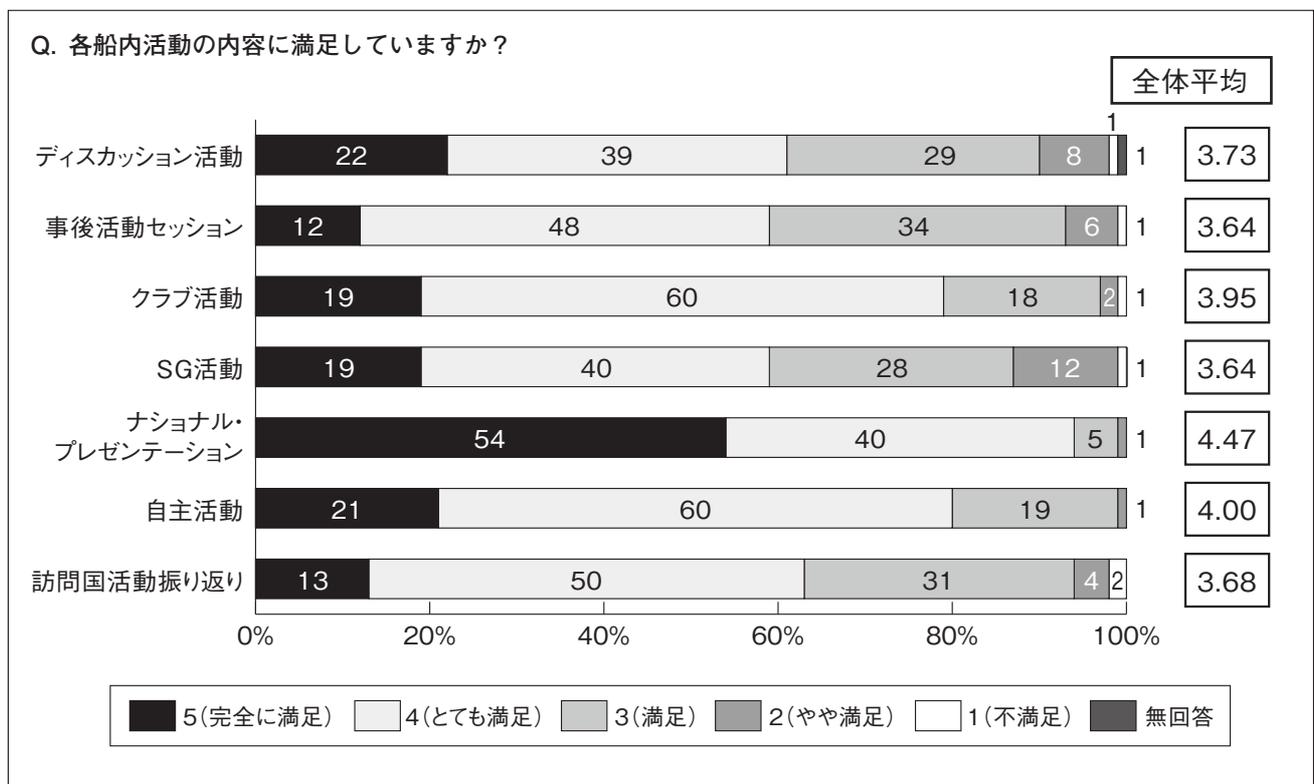
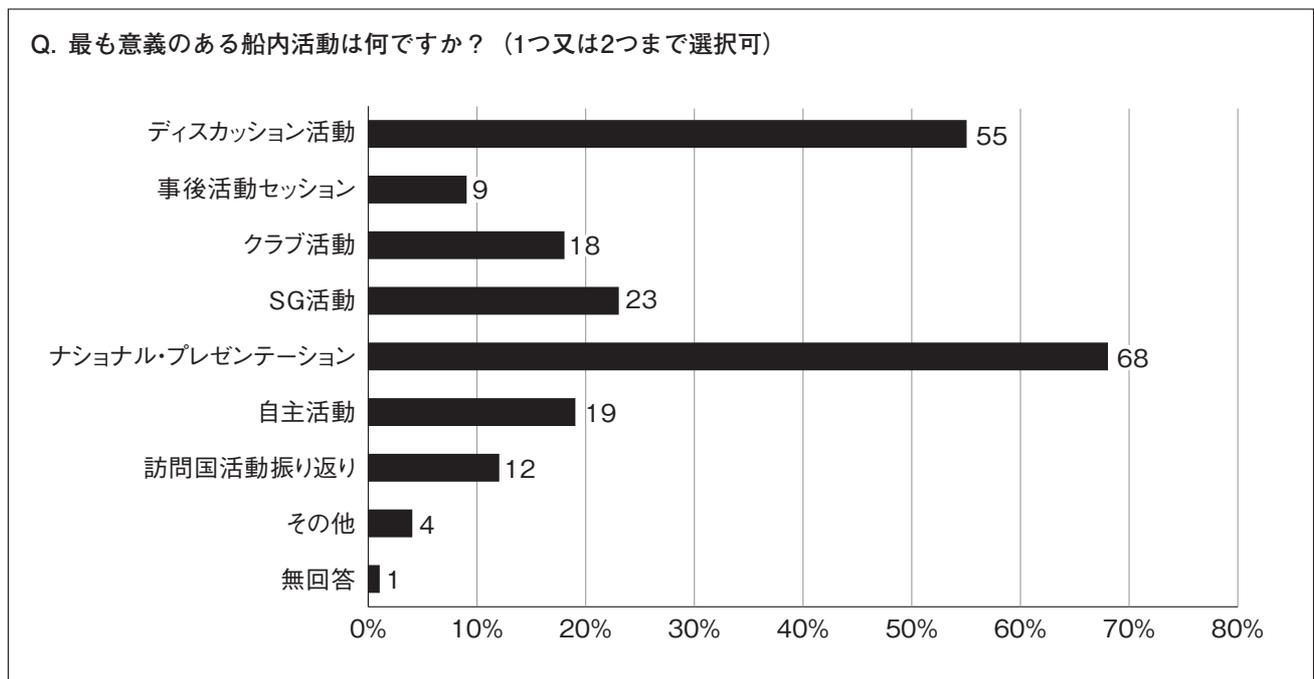
[船内活動]

Q. 船内活動の日程についてどう思いますか。

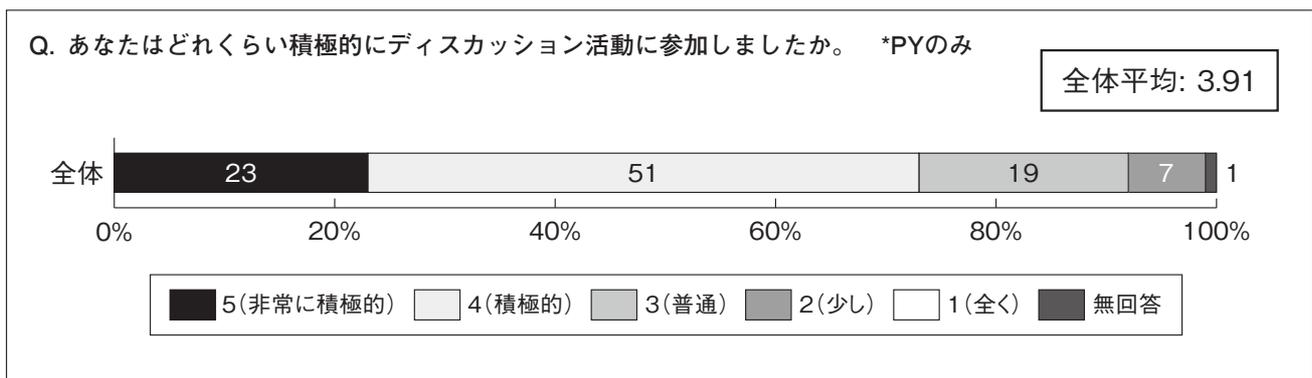
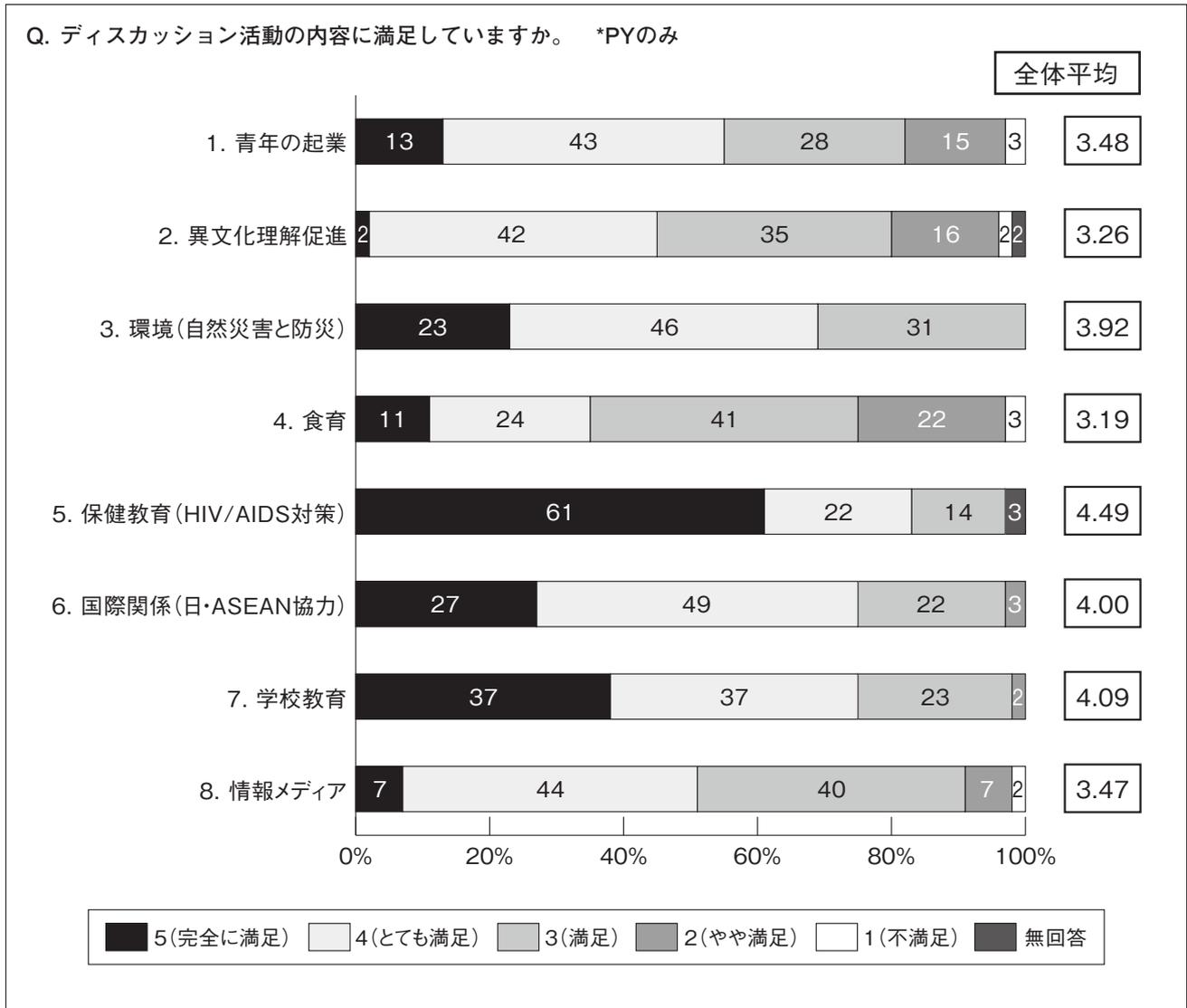
船内活動の日程について、前年度の評価と大きな差はなく、54%の参加者が3（適切）と評価し、44%が4以上（忙しい、非常に忙しい）とした。



船内活動について、「最も意義のある船内活動」として参加者が選択（1つ又は2つまで選択可）したのは、多い順に、ナショナル・プレゼンテーション、ディスカッション活動、となった。一方、それぞれの船内活動の内容についての満足度は、全体平均の高い順に、ナショナル・プレゼンテーション、自主活動、クラブ活動、となった。前年度の評価と比べると、より多くの参加者が自主活動（前年度は9%）を「最も意義のある船内活動」として選択した。



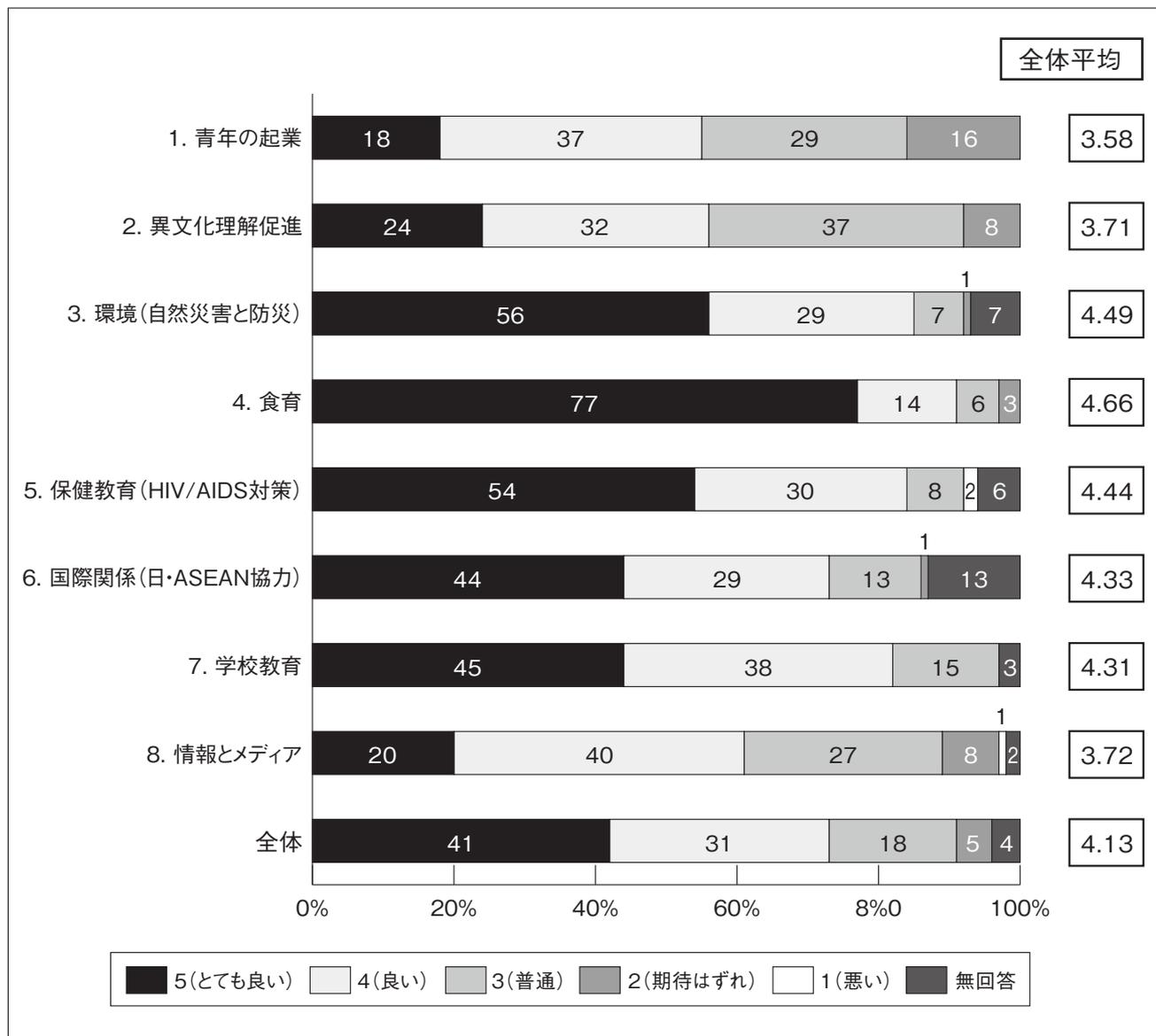
[ディスカッション活動]



[日本及びベトナムにおける課題別視察]

Q. ディスカッションのグループ・テーマとの関連において、日本における課題別視察をどう評価しますか。

ディスカッションのグループ・テーマとの関連において、日本における課題別視察に参加した青年の72%が4以上(良い、とても良い)と評価した。



DG1: パクチャーハウス東京

DG2: 横濱中華學院

DG3: 一般社団法人防災教育普及協会、池袋防災館

DG4: 株式会社ABC Cooking Studio

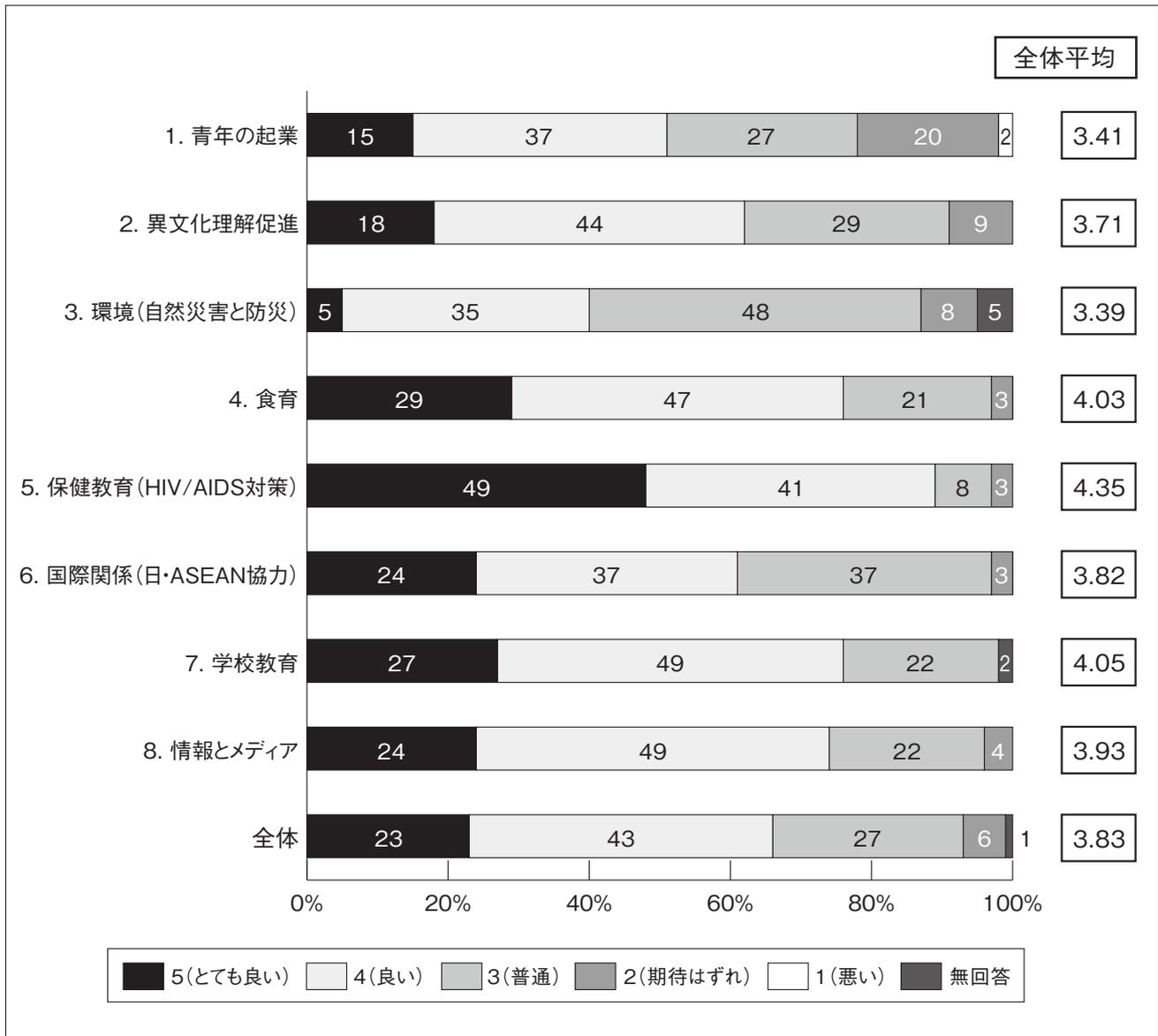
DG5: 特定非営利活動法人ぶれいす東京、特定非営利活動法人akta

DG6: 特定非営利活動法人開発教育協会、国際機関日本アセアンセンター

DG7: 品川女子学院

DG8: NHKスタジオパーク、Yahoo! Japan x Youth Create

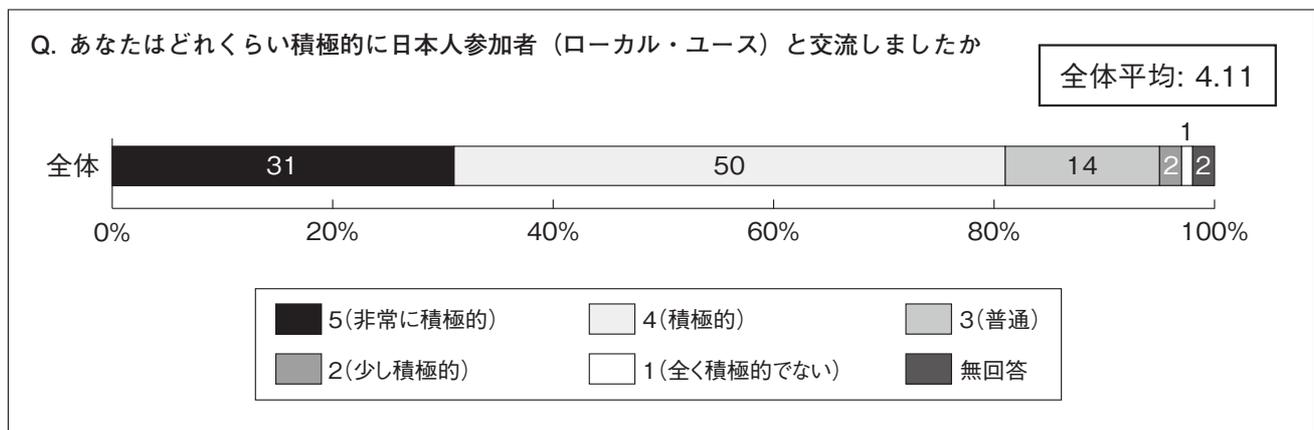
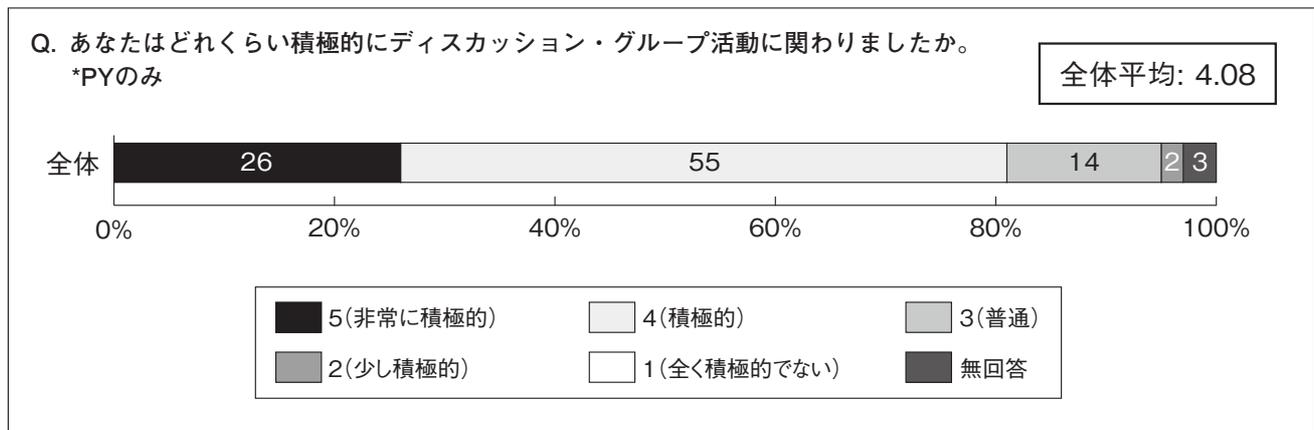
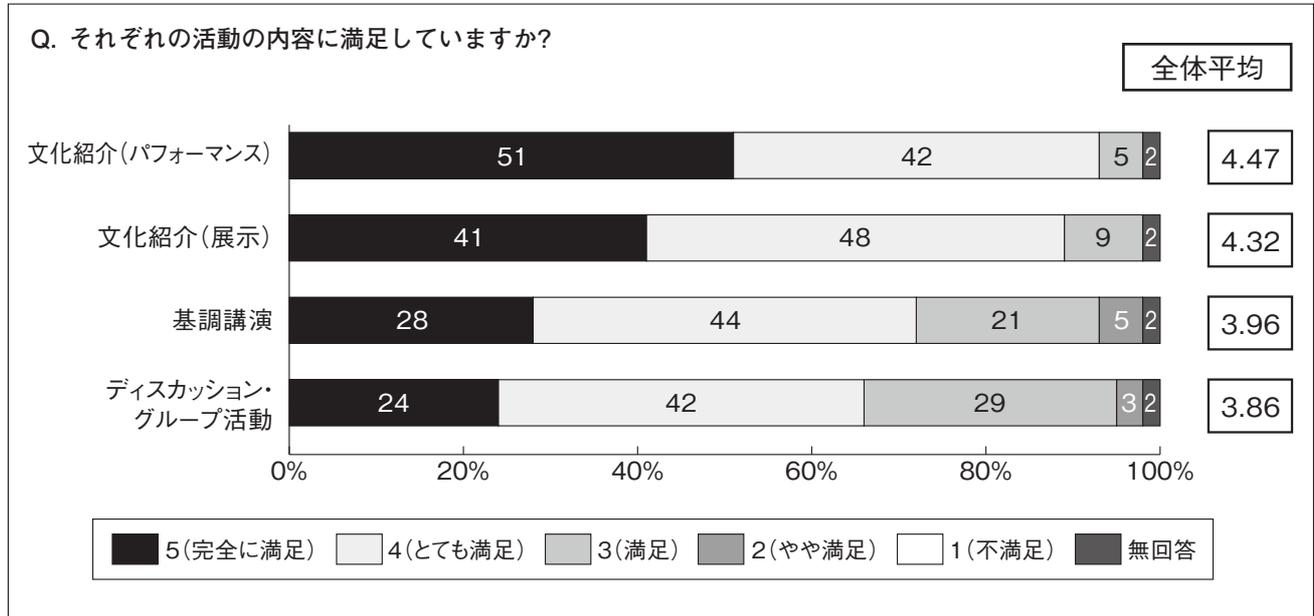
Q. ディスカッションのグループ・テーマとの関連において、ベトナムにおける課題別視察をどう評価しますか。
 ディスカッションのグループ・テーマとの関連において、ベトナムにおける課題別視察に参加した青年の66%が4以上（良い、とても良い）と評価した。



- DG1: トン・ドゥック・タン大学
- DG2: ホーチミンシティ人文社会科学大学
- DG3: ノンラム大学
- DG4: サイゴン・ツーリスト社ヴァンタイン・ツーリズムパーク
- DG5: リンスアン児童ホーム
- DG6: ベトナム国家大学ホーチミン市校
- DG7: レー・ホン・フォン高等学校
- DG8: トゥイチェー新聞

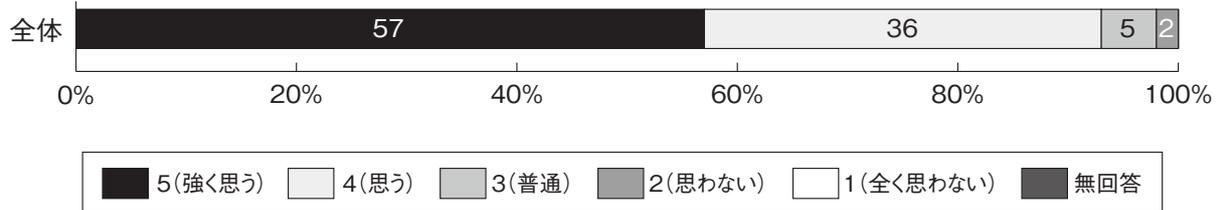
[日本・ASEANユースリーダーズサミット]

各国の「パフォーマンス」と「展示」について、それぞれ93%、89%が4以上（とても満足、完全に満足）と評価した。また、「ディスカッション・グループ活動」や「日本人参加者（ローカルユース）との交流」について、どちらも81%が4以上（積極的、非常に積極的）で、積極的に関わったと評価した。さらに、「日本・ASEANユースリーダーズサミットは、ASEAN各国と日本の相互理解の促進に貢献していると思うか」との問いに対し、93%が4以上（思う、強く思う）と評価した。



Q. 日本・ASEANユースリーダーズサミットは、ASEANと日本の相互理解を促進していると思いますか。

全体平均: 4.48



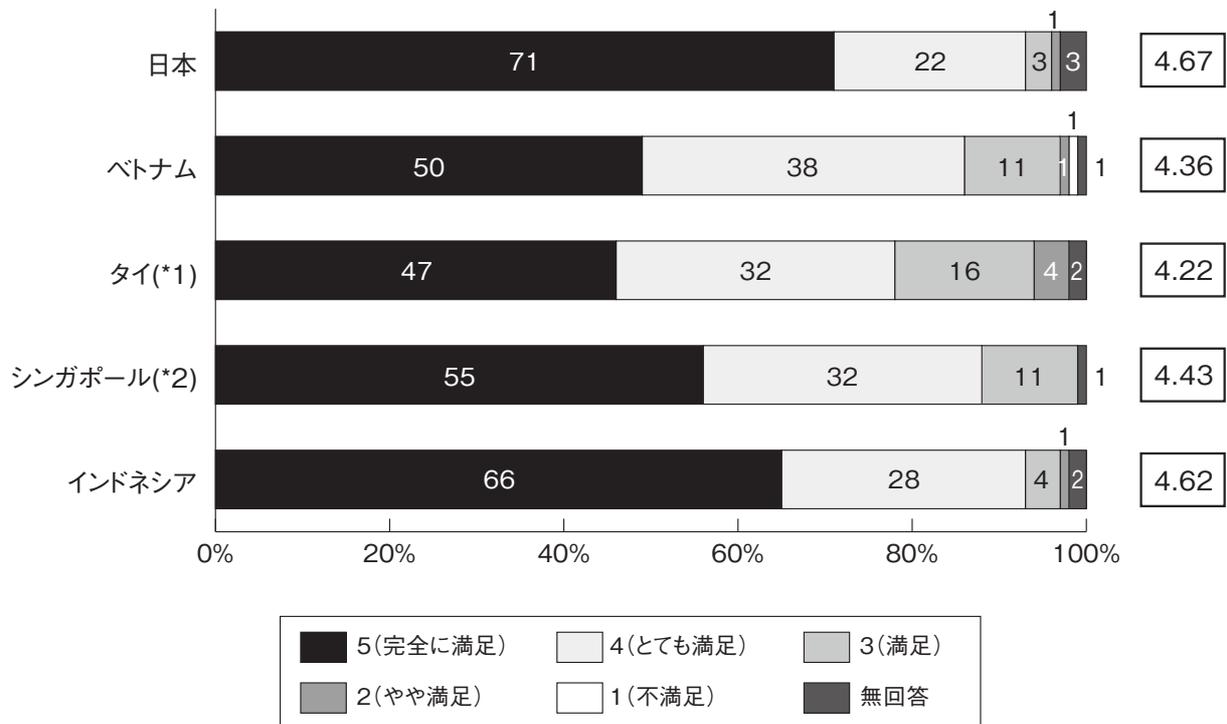
[ホームステイ]

Q. ホームステイはどうでしたか。

全ての訪問国において、79~94%が4以上（とても満足、完全に満足）と評価した。

*PYのみ (*1) タイPYを除く (*2) シンガポールPYを除く

全体平均



3 船長あいさつ

につぼん丸船長
久保 滋弘

平成28年度の第43回「東南アジア青年の船」事業が成功裡に終わられたことを心よりお慶び申し上げます。

この事業におけるにつぼん丸でのプログラムを、航海途中で数名の離団者はあったもののその方々も途中で復船され、参加青年全員が揃って東京で下船され、無事に終わることができましたことは、船上にて現場指揮に当たられた中村管理官を初めとする経験豊富な管理部の皆様、また、内閣府の皆様、財団法人青少年国際交流推進センター、日本青年国際交流機構及び寄港地を含めたアセアン各国の関係者皆様方のご尽力の賜物であり、また本船の運航に多大なご協力をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

さて、今航海において参加青年の皆様は、11月3日に東京港晴海埠頭にてにつぼん丸に乗船され、翌4日に当該事業関係者の皆様や参加青年のご家族ご友人等の多数の方々に見送られ、とても良い天気で穏やかな東京港晴海埠頭を出港しました。

太平洋に出ました後も、心配された台風23号の影響はなく、最終レグであったJakartaからの帰路においてバシー海峡（台湾とフィリピンルソン島の間）を通過時に多少波が高くなった他は、全体として期待以上に穏やかな航海が続き、気象・海象の点では例年に比べて非常に恵まれていたといえるでしょう。

これには私自身は安堵しましたが、参加青年の皆様にとられましては、さまざまな自然現象を体験するという点で少々物足りなかったかもしれません。

とはいえ、太平洋、東シナ海、台湾海峡、南シナ海、タイ湾、シンガポール海峡、ジャワ海、ボルネオ島からフィリピン沿岸にかけての海域などの様々な海域を航行し、また、Ho-Chi-MinhとBangkok寄港時には2つの大河を遡上したなかで、水平線から昇りまた水平線に沈む美しい朝日や夕日、満天の星空、2016年最大のスーパームーン（満月）や突然の激しい雷雨とその後に現れ



た美しい虹などの様々な自然現象、またどこからともなく飛来し船の周りで戯れ、時折船上で羽を休めていた海鳥達、波を切るにつぼん丸の舳先に驚き水面から飛び上がるトビウオや夜間には暗闇に浮かび上がる夜光虫の燐光、またBangkokからSingaporeに至る航路上で出会ったイルカの大群などの様々な生物たちとの出会いなど、普段の生活ではなかなか体験できない自然との出会いがあったのではないのでしょうか。

そのような大自然の中を航海するにつぼん丸船内で寝食をともしながらの様々な活動、また各国での寄港地活動を通し、参加青年の皆様は各国の文化・宗教・価値観の違いなど多くを体験し、またそれらの違いを超えた友情を育むことができたことと思います。

私自身も各国参加青年によるNational Presentationや各寄港地でのReunion Partyにご招待いただいた中で、改めて各国、各民族の多様性やその中での世相の移り変わりなどについて様々な気づきを得、学ばせていただくことがきました。

世界各地において孤立主義や一方的な力の行使を是とする考え方が台頭しつつある今日において、永年にわたり一貫して変わらずにASEAN各国並びに日本の青年達に多様性の尊重や相互理解の重要性を学ぶ機会と、各個人の友情を基礎に友好の輪を広げる場を提供し続ける当事業の重要性がますます高まっていると感じる中で、この度当事業に参加された各国青年各位がこの貴重な体験を今後の人生の中で是非とも有効に生かし、様々な分野においてリーダーシップを発揮し、世界に羽ばたく人材として成長されることを心から祈念致します。

そして今回参加された青年の皆様がまたいつの日か、何らかの形でにつぼん丸に帰ってきていただける日が来ますことを、私をはじめにつぼん丸乗組員一同心よりお待ち申し上げております。

最後になりますが、今回も私どものにつぼん丸をこの意義ある素晴らしい事業に参加させていただき、また少しでもお役に立てましたことを、乗組員一同心より感謝するとともに、光栄に感じております。歴史ある素晴らしい「東南アジア青年の船」の事業が今後とも末永く継続し、かつ益々発展されることを心より祈念致しまして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。